
外国語教育研究

Foreign Language Institute

センター年報

2014年度



金沢大学外国語教育研究センター

目次

巻頭言	1
スタッフ	2
組織	3
2014 年度事業報告	
日誌／FD 出張日誌	4 - 5
外部資金獲得研究	5
講演会	6
特別研究会／研究会	7 - 10
学習支援事業	10 - 11
留学支援事業	12
検定試験・検定模擬試験	13
社会貢献事業	14
その他の活動／購入語学教材	15
センター刊行物／スタッフの出版物	16

グローバル化と日本語



センター長
澤田 茂 保

金沢大学はスーパーグローバル大学創成支援事業の採択を受けて、教育改革が急ピッチで進められている。そのせいか学内文書でいろいろと英語の表現に出会うことが多くなった。

おおもとは「金沢大学〈グローバル〉スタンダード」で、それにはKanazawa University Global Standardが当てられているが、その能書きには五つの柱が明記されている。だったらStandardsとすべきであろう。もともとこれはタイトルなのだからと母語話者も許容するかも知れない。だが、どんなに鈍感な母語話者でも、これをセンテンス内で使ったらさすがに違和感がある。そして、困ったことに能書きを読めば読むほど、英語ではstandardsというよりもprinciplesの方が語彙選択としてふさわしいのでは、と思ってしまう。母語話者に校正を頼んでもこういう部分は直らない。母語話者神話を信じる人には理解してもらえないかも知れないが…。

たしかに各種の日本語文書の英語化は大切なことである。だが、国際的に通用性のない表現の中でどっぴりつかった思考をしていると、そもそも表現を英語にできないことがある。例えば、「人間力」などもそうだ。identityやprivacyを日本語にできないように、このことばの意味することを英語で表現することは難しい。それでは英語に訳すことは諦めて、講道館の柔道がjudoとして打って出たように、新しい価値として海外に打って出る、ということもある。しかし、それはそれでまた危うさもある。畳ではなく「マット」の上で腰を引いて互いに揉みあう体重別競技が「柔よく剛を制す」といわれた「柔（ヤワラ）の道」なのか、という思いを想像すればよい。「持続可能な」をsustainableと訳すのと訳が違う。

「グローバル人材を育成する」というフレーズもそうだ。これをdevelop global human resourcesと訳すことは簡単である。だが、human resourcesは、India has a large pool of human resourcesというようなときの表現である。日本語の「人材」では「材」のイメージは希薄化している。だが、英語のhuman resourcesはnatural resourcesとの対比が常に隠れている。大学の目標において、develop global human resourcesと安易に訳して平気であることは“insensitive”ではないだろうか。むしろKanazawa University educates and develops strong and resilient professionals, who can play active roles as leaders in the international community…などとあっさり英語で書き始める方がよいかも知れない。すると、言いたかったことではない、と言われそうだ。だが、「英語にする」とはそういうことなのである。

あっちこっち話が飛んでしまった。金沢大学の教育改革と同じで急ピッチで書いたからである。いずれにせよ、グローバル化にはglobeの表面にある人為的な国境を消していくイメージがある。internationalには、まだnationalが残されていた。グローバル化は必ずしもよい意味ではなく、「境界」を必死に守ろうとしている人たちには悪夢でしかない。避けられればそれに越したことはない、だが…という訳だ。日本は少子高齢化である。もはや日本だけでは立ち行かないので、国の境を開いて活路を見いださざるを得ない。だが、そのグローバル化は双方向で、我々自身（日本語や日本語の発想）も否応なく変化することになる。グローバル化の道は決してステキな(rosy)道ではなく、イバラ(thorny)の道であると思う。

スタッフ

英語

John Ertl (ジョン・アートル) 准教授
文化人類学

榎本 剛士 (えのもと たけし) 准教授
言語人類学、社会語用論

大藪 加奈 (おおやぶ かな) 教授
英語文学、英語教育

數見 由紀子 (かずみ ゆきこ) 教授
英語学・言語学

小林 恵美子 (こばやし えみこ) 教授
コミュニケーション学・日米比較文化論

澤田 茂保 (さわだ しげやす) 教授
英語学・言語学

西嶋 愉一 (にしじま ゆいち) 准教授
自然言語処理

根本 浩行 (ねもと ひろゆき) 准教授
社会言語学

John Bintliff (ジョン・ビントリフ) 教授
英語教育

結城 正美 (ゆうき まさみ) 教授
アメリカ文学・環境文学

ドイツ語

早川 文人 (はやかわ ふみと) 准教授
ドイツ文学

Bastian Nonnenberg

(バステイアン・ノネンベルク) 講師
現代日本社会研究・ドイツ語教育

フランス語

三上 純子 (みかみ じゅんこ) 教授
フランス文学

Emmanuel Antier

(エマヌエル・アンティエ) 准教授
言語文化教授法・フランス語教育

ロシア語

平松 潤奈 (ひらまつ じゅんな) 准教授
ロシア文学

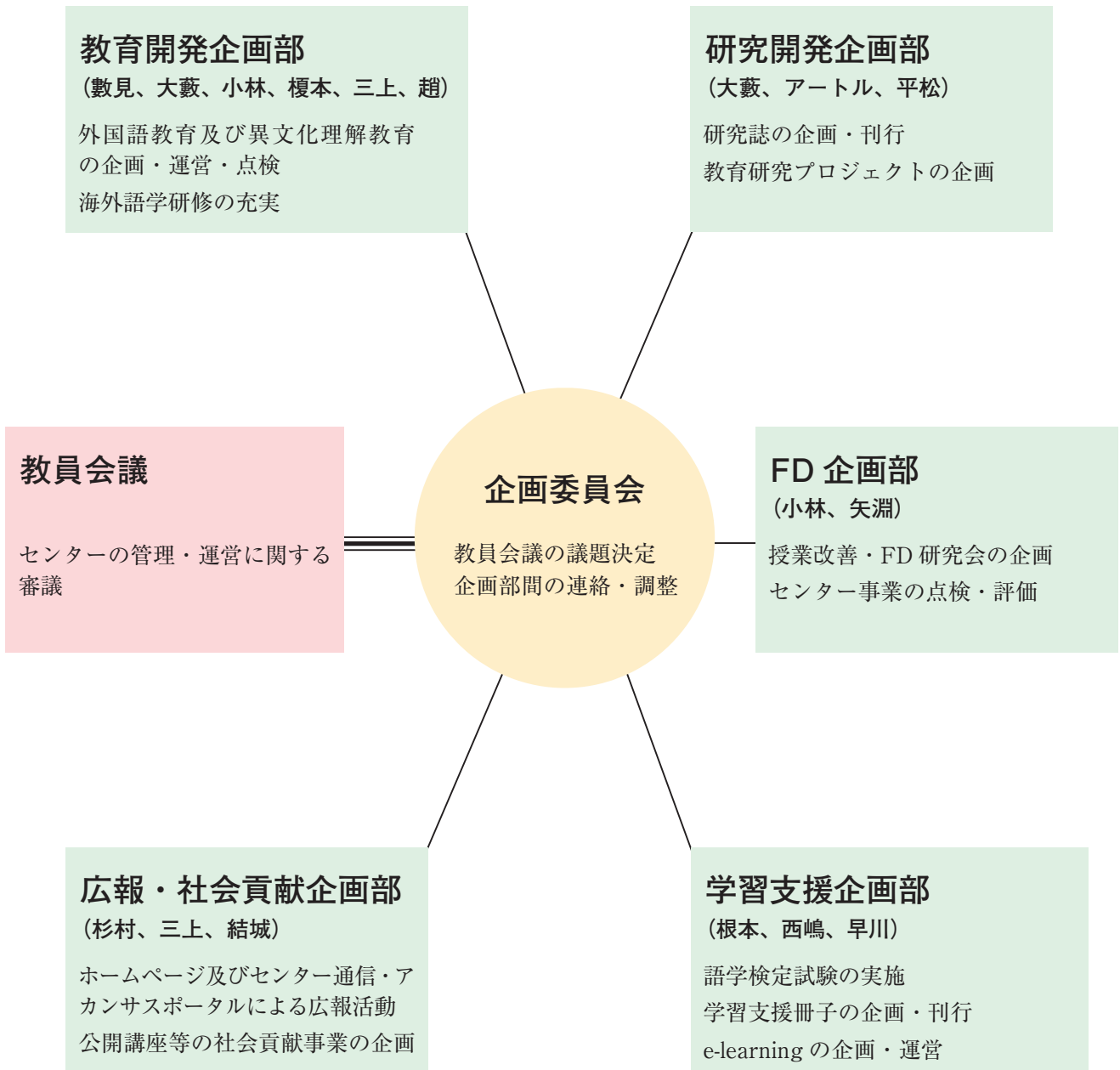
中国語

杉村 安幾子 (すぎむら あきこ) 准教授
中国現代文学

趙 菁 (ちょう せい) 准教授
日本語学・日中言語比較

矢淵 孝良 (やぶち たかよし) 教授
中国古典文学

趙 煒宏 (ちょう いこう) 准教授
中国語教育



2014年度事業報告

目 誌

- 2014年**
- 5月9日 講演会「世界はことばでできている－外国語をつうじて広がる世界－」／第1回FD研究会「英語だけでグローバル化は可能か？－大学のグローバル化と言語教育」
 - 6月9・11・12日 フランス語検定模擬試験
 - 6月11～23日 ランチョンセミナー「外国語学習週間・英語編」
 - 6月17～27日 ランチョンセミナー「外国語学習週間・初習言語編」
 - 6月22日 第83回中国語検定試験
 - 6月24日 第2回FD研究会「派遣留学の現状と課題」
 - 7月19日 IELTS
 - 7月22日 第3回FD研究会「語学に特化した『学生による授業評価アンケート』の集計結果」
 - 8月7・8日 オープンキャンパス
 - 9月6日 IELTS
 - 9月29・30日 IELTS対策2日間集中講座
 - 10月28日 第4回FD研究会「初習言語の語学研修－ドイツ語・フランス語・中国語－」
 - 11月10・12・13日 フランス語検定模擬試験
 - 11月25日 第5回FD研究会「共通教育特設プログラム(英語)をめぐる諸問題」
 - 11月23日 第84回中国語検定試験
 - 11月23日 2014年度秋季ドイツ語技能検定試験
- 2015年**
- 1月14～22日 ランチョンセミナー「海外語学研修特集」
 - 2月23日 第6回FD研究会「クォーター制と初習言語」
 - 3月7日 英語教員意見交換会「高等学校の英語使用授業と大学での英語授業運営」
 - 3月14日 IELTS
 - 3月22日 第85回中国語検定試験
 - 3月23日 講演会「東京海洋大学のTOEICプログラムについて」
 - 3月末日 『言語文化論叢』第19号発行
 - 3月末日 『外国語教育フォーラム』第9号発行
 - 3月末日 『センター通信年報(2014年度)』発行

FD出張目誌

- 6月6～8日 アートル JALTCALL(全国語学教育学会)2014
- 7月26日 アンティエ 京都言語文化教育研究会
- 8月1～5日 趙焯宏 中国語教員研修
- 8月10～15日 根本、榎本 AILA国際応用言語学会
- 8月19～21日 趙焯宏 漢日対比言語学研究会
- 9月13～14日 アンティエ 社会言語科学会研究大会
- 11月22～23日 アンティエ 日本フランス語教育学会

12月4～6日	根本	CLS国際会議
12月6日	數見	JACET英語教育セミナー
12月20日	アンティエ	京都言語文化研究会
1月4～8日	ビントリフ、小林	国際教育会議
1月11日	趙煒宏	中日理論言語学研究会
2月20～22日	アートル	Moodle Moot Japan 2015
3月15日	數見	言語教育エキスポ2015
3月20～21日	アンティエ	関西フランス語教育研究会
3月21～24日	根本	アメリカ応用言語学会

外部資金獲得研究

◎資金の種別、年度、研究科題名、研究者名の順で示してあります。

新規

科学研究費補助金 基盤 (C) 2014年度－2016年度

「日本人高校生によるいじめの原因調査」小林恵美子

科学研究費補助金 基盤 (C) 2014年度－2017年度

「鈴木胤の養生論における儒学の受容に関する研究と関連著作の注釈書の作成」趙菁

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2014年度－2017年度

「社会文化理論を用いた第二言語学術リテラシーの発達と異文化能力習得過程の研究」根本浩行

国際文化交流事業財団(JICEF)人物交流派遣事業 2014年度

「北欧における環境人文学の学術会議への参加」結城正美

スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団助成 2014年度

「北欧における環境人文学の萌芽的研究」結城正美

平成26年度北陸地区国立大学学術研究連携支援 2014年度－2015年度

「中華圏モダニズム研究会北陸分会」杉村安幾子、齊藤大紀(富山大学人文学部)、田村容子(福井大学教育地域科学部)

継続

科学研究費補助金 基盤 (C) 2013年度－2015年度

「Spoken languageの文法論に向けた英語表現におけるタグの研究」澤田茂保

科学研究費補助金 若手 (B) 2013年度－2015年度

「Diversity in Archaeology and Cultural Resource Production in Japan」John Josef Ertl

科学研究費補助金 若手 (B) 2012年度－2014年度

「異文化環境で教えるネイティブ語学教師の職業倫理に関する調査研究」Emmanuel Antier

科学研究費補助金 若手 (B) 2012年度－2015年度

「ソヴィエト的主体形成における所有と交換：スターリン期の公式文学研究」平松潤奈

科学研究費補助金 基盤 (C) 2011年度－2014年度

「日米現代文学にみる食言説と環境観に関する総合的研究」結城正美

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2011年度－2014年度

「アーミッシュとイスラム系児童文学にみる宗教的世界観の構築と受容」大藪加奈(代表者)、三上純子、John Bintliff(以上、本センター)、佐藤文彦(人文学類)、大藪千穂(岐阜大学教育学部)

講演会

「世界はことばでできている——外国語をつうじて広がる世界」

沼野充義（東京大学教授・ロシア東欧文学者・文芸評論家）（5月9日）

ゴールデンウィーク直後のぼんやりした頭をおもむろに勉強モードにきりかえてもらおうと日にちを設定した2014年5月9日、多くの学生にとって苦行かもしれない「語学」を、その味気ない語のもつイメージから解き放ってもらうべく、東京大学の沼野充義教授に語っていただいた。学生・教員・学外からの聴講者、あわせて200人ほどの方々が足を運んでくださった。この場を借りてお礼申し上げたい。

外国語を学ぶ理由は人それぞれだが、沼野教授によれば、コミュニケーション・ツールとして学ぶ必要があるなら短時間特訓すれば済むし〔誰もがそう簡単にいくわけではないだろうが……この小文を綴る私を含め〕、教養として身につけると言われても、興味がなければすぐに忘れて時間の無駄に終わってしまう。沼野教授は、外国語という己の外部を知ることは、つまるところ、自己を知ることへとつながっていくべきだという。

たとえば、「古池や蛙飛びこむ水の音」の蛙を、われわれは何匹と思いつかべているだろうか。一匹なのか、数匹なのか、大挙して飛びこんだのか。沼野教授の問いかけに、会場のほぼみなが一匹だと挙

手したが、ラフカディオ・ハーンはここをfrogsと英訳したらしい。ここから、単数と複数を区別せず文脈依存的に働く日本語、それによってできているわたしたち自身の世界について考えさせられる。

「詩とは翻訳において失われるものである」というロバート・フロストの言葉を引きつつも、沼野教授は、しかしまさにその喪失によって私たちは自己を発見するのであり、そのような喪失があるがゆえに、それを乗り越えるための「越境のエネルギー」が生まれるのだ、と説く。

沼野教授が長年キーワードとしてきた「越境」とは、グローバル化したこの世界を軽々と駆けめぐることではない。「こんなに違うのにわかりあえたという喜びと、こんなに同じはずなのになぜわかりあえないんだろうというがっかりする気持ち」、この喜びと悲しみのあいだの往復運動が越境なのだ。

これは、一月前に新しい外国語を学びはじめた一年生にも、長年外国語に触れてきた教員にも等しく響く、力強い励ましの言葉となったのではないだろうか。

（平松潤奈記）



特別研究会

英語教員意見交換会「高等学校の英語使用授業と大学での英語授業運営について」

金沢大学近隣の高等学校5校（金沢大学附属高等学校、金沢桜丘高等学校、金沢錦丘高等学校、金沢泉丘高等学校、金沢二水高等学校、当日発表順）より、英語主任の先生方や学校設置科目担当の先生方7名に、各校の英語授業について報告して頂きました。

通常の英語科目では、プリントを工夫して文法や語彙の習得も目指し、英語による説明の導入や、ライティング力向上に力を入れていること、学校設置科目では、留学生や英語圏の高校生との対面やSNS・TV会議による交流、他科目とのコラボ授業、現代の諸問題を英語で扱う授業等、各校の特徴的な

科目が紹介されました。

フリートークでは、高大連携の視点からは、大学の英語科目や一般教養科目で、どのような英語使用授業が可能か、高等学校の先生と当センターの教員で、有意義な意見交換ができました。（大藪加奈記）



研究会

「英語だけでグローバル化は可能か？」

——大学のグローバル化と言語教育」

澤田茂保・大藪加奈・矢淵孝良・三上純子

ゲスト講師：沼野充義（東京大学）（5月9日）

2014年5月9日、英語だけでは世界はわからない（もちろん英語は世界言語として身につける必要はあるが）ということが強調された沼野充義・東京大学教授による講演会の余韻のなか、1時間という短い時間ではあったが、山崎新学長のもとで進められている共通教育改革のとくに言語教育に関わる事柄をめぐって、23名の本学教職員・学生が情報共有と



意見交換をおこなった。研究会では、改革の概要（澤田茂保教授）、「金沢大学グローバルスタ

ンダード」と言語科目改革の現状（大藪加奈教授）、初習言語の変遷（矢淵孝良教授）、他大学のケース（三上純子教授）



について報告があり、それを受けて沼野教授からコメントや提案があった。グローバル化の時代において大学が担うべき言語教育をめぐり、理念と実践の双方について議論が進むなか、改革構想側とは異なる見解が示され、改革を描く側と言語教育の現場に携わる側とのコミュニケーションの必要性が実感された。（結城正美記）

「派遣留学の現状と課題」

隅田希望 (国際機構支援室留学生係) (6月24日)

金沢大学は学生の海外体験を推奨しており、その一環として派遣留学の拡充が必要とされ、本センターもそれへの貢献を求められています。そこで本研究会では、派遣留学担当の隅田さんから現状と課題について報告していただき、24名の参加者で意見交換をしました。従来あまり知られていなかった事実



としては、奨学金の種類が増え、募集枠も急速に拡大していることを挙げるすることができます。今後、学生からの相談を受けた時、積極的に勧める材料の一つになるでしょう。一方、学生交流の覚書を締結しながら、派遣の手続きが円滑に進まない大学もあるとのことで、送り出す側としては少し不安を感じざるを得ませんでした。また、派遣留学に関する規程がないというのも驚きで、危機管理体制の確立を含めて明確な規程を作成し、責任者を置いて運営する体制づくりの必要性を痛感させられました。

(矢淵孝良記)

「語学に特化した「学生による授業評価アンケート」の集計結果 (平成25年度後期分)」

小林恵美子・杉村安幾子 (7月22日)

外国語教育研究センターFD企画部は、本学の教育の質の向上を目指すFD活動の一環として、全国大学生調査の調査票を参考に、語学に特化した「学生による授業評価アンケート」改訂版を平成25年後期に実施しました。本研究会では、英語科目と初習言語科目に分けて、履修動機、授業外学習時間、外国語運用能力向上感等、設問毎に集計結果の報告がありました。分析の結果、①理解度向上のための工夫、②ペアワークやグループワーク等学生参加の機会確保、③授業への積極的姿勢、④授業内容と自身

のレベルとの合致が、シラバスに記載されている学習目標達成感につながっていることが明らかになりました。



これらの分析結果等について、参加者との間で有益な意見交換が行われました。(小林恵美子記)

「初習言語の語学研修——ドイツ語・フランス語・中国語——」

早川文人・三上純子・矢淵孝良 (10月28日)

本学のドイツ語、フランス語、中国語では、夏休みに交流協定校における引率を伴う語学研修を実施

し、単位認定を行っている。本研究会はこれらの語学研修の現状を報告し合い、情報共有を図るために



企画された。はじめにレーゲンスブルク大学におけるドイツ語研修およびデュッセルドルフ大学における文化的プログラム、富山大学と共同実施しているオルレアン大学でのフランス語研修、北京語言大学と台湾師範大学の二つの研修先選択肢を持つ中国語

研修のそれぞれについて、各言語の担当者から研修内容、参加者実績、これまでに発生した問題などの報告があった。続いて行われた20名の参加者との意見交換では、いずれの研修も毎年一定の参加者があり、参加者からは必ず派遣留学応募者が出るなど、学習継続の大きな動機付けとなっていることが確認された。他方で、大学としての危機管理体制が確立しておらず、引率経費の予算確保についてもルールに不明瞭な点があるなど、今後これらの研修を続けていく上で改善すべき点も指摘された。今回の議論が今後の研修の運営に活かされるよう願っている。

(三上純子記)

「共通教育特設プログラム（英語）をめぐる諸問題」

数見 由紀子・榎本 剛士 (11月25日)

本研究会では、2011年度に開設された二つの「共通教育特設プログラム」、「英語ステップアップ」と「英語国際コミュニケーション」について、開設経緯と現状を報告し、課題および今後の方向性について議論した。



に置いたカリキュラム開発・学習支援を展開してきた。英語特設プログラムの開設に、「外セと英語グ

2001年度の「外国語教育研究センター将来構想」以来、本センターと英語グループでは、「在学中を通じた、継続的な英語学習」を念頭

ループ独自の流れ」と「時の共通教育機構の方向性」とが一致した、という背景があることは重要である。



英語特設プログラムの登録者数は、2014年度後期登録時点で延べ138名となり、開設4年目の本年度は多くの修了者が見込まれる。2016年度から本学共通教育は大きく変わるが、「在学中を通じた、継続的な英語学習」の機会を学生にいかに保証していくのか、全学レベルでの議論と取り組みが期待される。

(榎本剛士記)

「クォーター制と初習言語」

杉村 安幾子・早川 文人・平松 潤奈・矢淵 孝良 (2015年2月23日)

2016年度に本学の共通教育は、セメスター制からクォーター制に移行を予定しています。この学期制

の変更は、半年ないし1年の学習期間の前提の下に授業計画を立てている初習言語教育に大きな影響を

与えます。本研究会では、他大学の状況報告が行われたあとで、本学のクォーター制への移行に伴って生じる問題点について、参加者との間で活発で有益な意見が交わされました。クォーター制についてたんなる制度設計上の問題点を指摘するだけに留まることなく、本研究会を契機に学習者への学習効果もしっかり鑑みた議論を積み重ね、初習言語の教育体制を整えていきたいと思えます。

(早川文人記)



学習支援事業

IELTS 集中講座

ブリティッシュ・カウンシルからIELTSを専門とする英語ネイティブ講師を招き、9月29、30日にIELTS集中講座を実施しました。ブリティッシュ・カウンシル独自の教材とIELTSの模試問題をテキストとして用いて行われた本講座には、主に派遣留学を希望する学生37名が参加しました。1日目はIELTS試験の概要や試験の取り組み方、各スキルのアプローチの仕方・対策等を学習し、2日目は学生の弱点克服に主眼を置き、講師からフィードバックを受けながら午前はスピーキング、午後はライティングの実践練習をしました。試験で最大限の成果を発揮するための効果的な方略を学ぶだけでなく、論理的に話す・書くにはどうすればいいのかを教わり、講座中に得た役に立つ表現、構成法などの知識をトピック別の練習問題で実際に活用し定着を図りました。また、この集中講座に加え、日本英語検定協会による4週間のオンラインライティング講座を年2回開講し、5月～6月の1回目には9人、2月～3月の2回目には11人の派遣留学候補者及び希望者が受講しました。派遣留学支援の一環としてのテスト対策にとどまらず、論理的英語運用能力を促進する上で確かな土台づくりができたことも大きな成果と言えるでしょう。(根本浩行記)

ランチョンセミナー「外国語学習ウィーク」

本センター主催のランチョンセミナー「外国語学習週間」において、センターのスタッフを中心に6月11日から13回のミニ講義を行った。大学での語学学習に関する様々な情報の提供に加えて、日本人学生の体験談や留学生による母校の紹介などもあり、参加者には親しみの持てる企画として好評であった。(三上純子記)



第1回 モナシユ大学語学研修体験談

根本 浩行

第2回 大学生としての継続的英語学習法

小林恵美子

第3回 ワシントン大学とユーコンカレッジ研修
参加者からのアドバイス

結城 正美

第4回 パソコンで英語学習！ ALC NetAcademy
2を使ってみよう

西嶋 愉一

- 第5回 ロシア留学のすすめ 平松 潤奈
 第6回 エジンバラ大学英語研修 体験者の声を聞こう! 大藪 加奈
 第7回 今日からはじめるTOEIC対策 西嶋 愉一
 第8回 IELTSで勝ち取る派遣留学! : 試験対策とIELTS勉強会 根本 浩行
 第9回 「英語」で後悔しないために! : 共通教育特設プログラムのすすめ 榎本 剛士
 第10回 派遣留学で行けるフランス語圏の大学と町の紹介 エマヌエル・アンティエ
 第11回 朝鮮語の魅力と学び方 宋 有宰 (非常勤講師)
 第12回 中国語の魅力と学び方ー奥巴马ってだ〜れだ? 楽しい中国語の外来語 趙 菁
 第13回 ドイツの街を知ろうーレーゲンスブルクとデュッセルドルフを中心に 早川 文人、バスティアン・ノネンベルク

- 第2回 あなたは北京? それとも台湾? : 中国語夏季語学研修 矢淵 孝良
 第3回 ホームステイでフランス語を学ぶ! : オルレアン大学夏期研修 岩津 航 (人文学類)
 第4回 ロシア語サマースクールの紹介 平松 潤奈
 第5回 エジンバラ大学研修の案内: 経験者の声を聞こう! 大藪 加奈
 第6回 世界遺産の街レーゲンスブルクで学ぶ: ドイツ語サマースクール体験談 早川 文人



ランチオンセミナー「海外語学研修特集」

後期の授業終了前にランチオンセミナー「夏季語学研修特集」を実施した。今年度は英語圏の研修に加え、ドイツ、フランス、中国、ロシアの研修も紹介した。教員の説明に続いて研修参加者のプレゼンテーションが行われ、研修に興味を持つ学生たちにとっては参加者に直接質問できる有意義な機会となった。(三上純子記)

- 第1回 モナシュ大学語学研修体験談: 世界一住みやすい都市メルボルンで学ぶ40日間 根本 浩行

初習言語履修ガイダンス

共通教育科目履修説明会の日程にあわせ、4月2日～4日に新入生対象の初習言語のガイダンスを実施した。これは学生たちにそれぞれの言語の魅力を伝え、初習言語の学習に関心を持ってもらうことを目的とした企画で、本センターを中心とした初習言語の担当者が履修相談も受け付けた。会場では、各言語の特徴、教科書や授業スタイル、語学研修のメリットなどについての説明が行われ、繰り返し訪れて教員と話し込む学生もいた。本ガイダンスを始めた2012年度以降、言語によっては、理工学域など初習言語を必修としない学域の学生の履修が増えたところもある。学生たちに多言語・多文化の世界を伝える数少ない機会でもあるので、来年度も続けたいと考えている。(三上純子記)

留学支援事業

留学準備授業

今年度は英語Ⅱと英語Ⅲで留学準備クラスを17科目開講しました。その内訳は、TOEFL 準備クラス（5コマ）、異文化適応対策クラス（2コマ）、外国人留学生とのジョイントクラス（5コマ）、語学研修事前学習クラス（5コマ）です。

ジョイントクラスでは、各国の留学生と一緒にプレゼンテーションしたり、議論したりする機会を提供しました。語学研修事前学習では、海外で起こりうる危機管理に関するシミュレーションや、前年度の参加者による体験談・アドバイスもありました。（大藪加奈記）

エジンバラ大学語学研修

英国エジンバラ大学研修（9月・2月・3月）には、47名が参加しました。

今年度は、世界的にテロ脅威が高まり、過激派組織が日本人を標的にすると公言するなど、不安要素もあって研修をキャンセルする学生が出ました。

研修内容を見直して危機管理を強化し、共通教育機構長が保護者への説明や領事館との連絡を行うなど、学生の安全を重視した体制づくりが進みましたが、今後もテロ脅威の高い状況が続くようなら、海外経験が少なく、危機管理能力や英語力がまだ低い低学年生の語学研修をどのように運営するか、検討の必要があるでしょう。（大藪加奈記）

ワシントン大学語学研修

シアトルの美しいキャンパスでの語学研修、今年度は9月2日～19日のセッションに9名が参加しました（内訳：国際3、地域創造1、数物科1、機械工1、薬／創薬3、女子3、男子6）。この研修には、文化体験型Language & Culture (LC) と、アカデミックな英語力に特化したOrientation to Academic Skills (OAS) があり、本学の参加者は全員、クラスメートとの異文化交流が期待できるOASを受講しました。大学でもホームステイ先でも英語漬けの毎日で、学生は英語力や異文化交渉力を鍛えられました。（結城正美記）

モナシュ大学語学研修

世界一住みやすい都市オーストラリア、メルボル

ンで学ぶことのできるこの語学研修には、今年度は前期5名、後期2名が参加しました。クラス分け試験を経て個々のレベルにあった学術英語養成集中コースを5週間受講し、いろいろな国から来ている学生たちと肩を並べて切磋琢磨しながら実際に英語圏の大学の授業で必要とされる学術能力習得の土台づくりをしました。また、海外留学用の英語試験IELTSを研修の最後に受験することで自らの学習到達度を確認することができ、将来派遣留学を視野に入れた自律学習への意識を高める良いきっかけとなりました。（根本浩行記）

ユーコンカレッジ語学研修

本学用に開発されたユーコンカレッジ（カナダ）での語学研修、今年度も希望者多数で、スクリーニングテストで選出された15名が、9月6日～28日にアラスカに隣接するユーコン準州ホワイトホースでの英語研修とホームステイに参加しました（内訳：人文1、国際5、法1、経済4、物質化2、薬／創薬1、医1）。教室での英語授業のほか、先住民文化ワークショップ、野外活動（カヌー、オーロラ鑑賞など）、ユーコンならではのプログラム内容。真に異なる価値観との出会いを体験した学生たちは、英語力だけでなく異文化理解の重要性も実感したようです。（結城正美記）

初習言語の語学研修 レーゲンスブルク大学・台湾師範大学

本センターの教員（矢淵孝良・早川文人）は、台湾師範大学（8/10～21）とレーゲンスブルク大学・デュッセルドルフ大学（8/29～9/26）における研修を担当しました。参加者はそれぞれ6名と31名（富山大学の4名を含む）でした。学生の満足度の高い研修ですが、担当者にとっては、学生の行動に対する心配りやら、引率費用の負担やら、心身の疲労が重なるイベントです。担当者の負担を解消すべく、大学として実施方法等を検討するよう切に望みます。（矢淵孝良記）

検定試験・検定模擬試験

IELTS

IELTSの学内受験を年4回（7月、9月、1月、3月）実施した。今年度の受験者数は7月が24名、9月が14名、1月が18名、3月が12名で、計68名であった。この学内受験制度の導入により、学生たちは確かな目標設定のもと留学に向けた学習をより計画的に進めることができるようになり、派遣留学先で要求される入学基準スコアの6.0もしくは6.5以上を取る学生の数も増えてきている。また、学生たちが自主的に行っている「IELTS勉強会」の活性化に繋がっていることから、学内受験が着実な成果をもたらしていることがわかる。来年度も年4回の実施を検討しており、派遣留学支援の体系化に今後とも貢献していきたい。（根本浩行記）

ドイツ語検定試験・ドイツ語検定模擬試験

2014年度秋期ドイツ語技能検定試験（独検）は、11月23日に本学総合教育講義棟で行われた。本学学生の級別受験者数（延べ数）と合格者数（括弧内）は、以下の通りである。

	春期	秋期	合計
1 級		1 (0)	1 (0)
準1 級		6 (4)	6 (4)
2 級	7 (3)	7 (5)	14 (8)
3 級	8 (5)	24 (17)	32 (22)
4 級	4 (2)	10 (10)	14 (12)
5 級	0	1 (1)	1 (1)
合計	19 (10)	49 (37)	68 (47)

2 級、準1 級の受験者数の増加と合格率の上昇は、本学が実施しているサマーコースや交換留学の成果と言えよう。特に3級の受験者数と合格者の増加は、サマーコースの事後学習と2、3 級を対象に行った独検対策講座（春季・秋季各2回）の効果があつたのではないかと考えられる。対策講座は学生の要望に応えるかたちで内容をより充実させ、学生の継続学習の支援の一環として、今後も継続して行っていきたい。

（早川文人記）

フランス語検定模擬試験

2014年度実用フランス語技能検定試験の日程に合わせ、春は6月9、11、12日、秋は11月10、12、13日に、準2・3・4・5級の模擬試験を実施した。

参加者は準2 級7名、3 級11名、4 級3名、5 級1名であった。仏検受験者の方は74名であった（下記の表参照、括弧内は合格者数）。今年度も留学を終えた学生の中に準1 級合格者がいた。また、オルレアン大学で行われる夏期のフランス語研修に参加した学生たちの多くが、模擬試験も活用して準2 級に挑戦し合格した。留学を目指す学生たちには、仏検と合わせ、DELFの取得が望まれるので、今後はA2やB1レベルの情報提供や勉強の仕方についてのアドバイスなどの学習支援も強化していきたい。

（三上純子記）

	春季 (6/15)	秋季 (11/16)	合計
1 級	1 (0)		1 (0)
準1 級		3 (2)	3 (2)
2 級	3 (1)	3 (1)	6 (2)
準2 級	6 (5)	13 (9)	19 (14)
3 級	8 (8)	5 (4)	13 (12)
4 級	8 (8)	23 (20)	31 (28)
5 級	1 (1)	0	1 (1)
合計	27 (23)	47 (36)	74 (59)

中国語検定試験

2014年度中国語検定試験は日本中国語検定協会の実施に合わせて例年通り三回行なった。

今年度の特徴は受験者数の減少である。前年度比21名減となり、合格者も11名減である。今年度中国語履修者の減少とともに、近年の日中関係の悪化が顕著に反映された結果ではないだろうか。憂えるべき事態であると考えているが、全国の大学で同様の現象が起きており、こればかりは個別の教員の努力だけではいかんともし難い。とは言え、今年度も中国語学習に熱心かつ真摯に取り組む学生は確実に存在しており、心強く頼もしい思いをしている。そうした学生達には、教員としても丁寧に対応していきたい。

各回の級別受験者数は以下の通り。括弧内は合格者数である。（杉村安幾子記）

	第82回 (3/23)	第83回 (6/22)	第84回 (11/23)	合計
1 級			1 (1)	1 (1)
準1 級	0	0	0	0
2 級	0	3 (0)	4 (1)	7 (1)
3 級	12 (2)	5 (2)	5 (4)	22 (8)
4 級	6 (5)	1 (1)	5 (2)	12 (8)
準4 級	0	0	0	0
合計	18 (7)	9 (3)	15 (8)	42 (18)

社会貢献事業

英語授業参観

平成25年施行の学習指導要領で教育を受けた高校生が、平成28年度に大学に入学することを受けて、当センターでは、高大接続を意識した大学英語カリキュラムの開発に取り組んでいます。平成28年度は英語科目を含む金沢大学の共通教育カリキュラムが刷新される年でもあります。高大連携事業として、今年度は金沢大学への受験者が多い近隣高等学校の英語授業参観(3校30クラス)と、高等学校教員等(6名)による金沢大学英語科目の授業参観を実施しました。高等学校での英語による授業は、コースやレベルによって導入の度合いが異なることがわかりました。参観後意見交換も行い、大学英語授業運営の参考になる情報が得られました。(大藪加奈記)

公開講座

今年度は(各国シリーズ)「生きものと暮らす：生きものにフォーカスして世界の国々の暮らしをみてみよう」というテーマで、開催しました。

- 第1回 〈イギリス編〉田舎暮らしと生きもの
大藪 加奈
- 第2回 〈ドイツ編〉生きものとの暮らし
早川 文人／バスティアン・ノネンベルク
- 第3回 〈ロシア編〉ロシア文学の民衆と動物
平松 潤奈
- 第4回 〈中国編〉架空の動物・現実の動物
杉村安幾子
- 第5回 〈オーストラリア編〉オーストラリアの
自然と生きもの
根本 浩行

生息する場所や地域によって動物の種類にも、人々との関わり方にも、違いがあります。ペットや農作業の担い手として人々の近くにいる動物、身近にはないけれど国の象徴となっている動物、物語



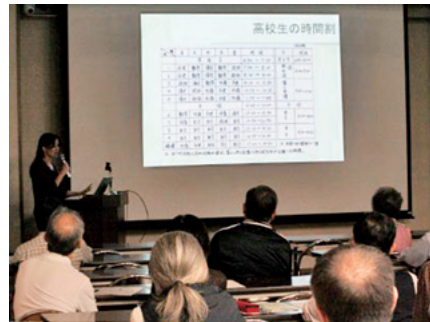
や詩歌にあらわれる動物、観賞用の動物、食用の動物…。それぞれの国や地域に詳しい教員が、いろいろな

角度から生きものと人間の関係を考え、各地域に特徴的な文化や暮らしについて、講義しました。

(大藪加奈記)

サテライト・プラザミニ講演

10月5日、地域連携推進センター企画・主催のサテライト・プラザミニ講演において「中国の大学受験狂騒曲——過剰な教育熱と受験戦士たちの激闘」を担当した。中国で毎年6月に行なわれる統一試験と高校生の受験勉強への凄まじい取り組みを紹介し、来場者からは「知らないことを聞いて興味深かった」などの感想を得た。(杉村安幾子記)



e教育サロンシンポジウム

11月22日、サテライト・プラザにおいてe教育サロン第4回シンポジウム「大学間の連携を活かした教育～本気で考える教育～」が開催され、外国語教育ではe-learningのことが紹介された。e-learningという学習形態は、学習というものを認知的・情動的な側面から見る傾向があるが、学びとはそういう側面だけでなく、多面的なものだ、というような話をした。外国語学習では、人は人との関わり合いの中で学ぶ側面があるということである。

(澤田茂保記)



その他の活動

海外留学フェア2014

7月11日に「海外留学フェア2014」(国際機構主催)が開催され、本センターの教員は留学・語学相談とTOEFL・iBTトライアルコーナーを担当した。留学を強く希望し、熱心に質問や相談をする学生達には、よりきめ細かな指導や支援をしていきたいと考えている。(杉村安幾子記)



オープンキャンパス

本センターは8月7日、8日のオープンキャンパスに際し、国際機構、留学生センターと協力し、金沢大学の国際化の現状、派遣留学、海外語学研修、外国語の授業などに関する説明を担当しました。国際学類に進学希望の生徒が多かったようですが、法学類や経済学類に進学希望の生徒もいました。教員と派遣留学体験者の説明を聞きながら、派遣先や外国語学習について積極的に質問する高校生がよく見受けられました。また、説明会をサポートしてくれた外国人留学生と熱心に英語で会話する高校生と保護者もいました。(趙菁記)



教育実践報告会「能動的学習を促す取り組み事例」

3月3日に教育企画会議教務委員会主催の「教育実践報告会」が開催され、共通教育言語(英語)科目の事例報告がありました。報告では、語学の授業によく見られるグループ活動を中心とした授業運営について、活動しやすい教室の形、予習を促すためのワークシートや評価シートの作成、学生が予習してきたことを楽しく実践・発表できる工夫や雰囲気作りのヒント等が紹介されました。(大藪加奈記)

購入語学教材 [2014年度分]

英語

- ・ ENGLISH JOURNAL (CD付)
- ・ CNN ENGLISH EXPRESS (CD付)
- ・ 英検 全問題集 2014年版 (CD付)
- ・ TOEICテスト新公式問題集 Vol.6
- ・ 読むだけでわかる! TOEFLテストガイドブック

他98点

ドイツ語

- ・ 独検過去問題集 2014年度版
- ・ 中級をめざす人のドイツ語講座
- ・ 携帯&スマホでドイツ語
- ・ ドイツ語を読む

他4点

フランス語

- ・ 仏検公式ガイドブック 2014年度版

他8点

中国語

- ・ 中国語ジャーナル (CD付)
- ・ 聴く中国語 (CD付)
- ・ 中検問題集 2014年度版 (CD付)
- ・ 中国語のしくみ

他18点

韓国語

- ・ 韓国語ジャーナル (CD付)
- ・ ハングル能力検定試験 過去問題集 第9巻
- ・ 1週間のできる初級ハングル書き取りノート

他2点

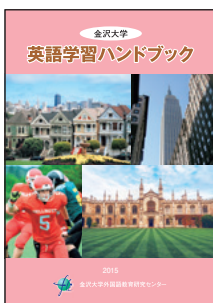
スペイン語

- ・ スペイン語文法ハンドブック

センター刊行物

学習支援冊子

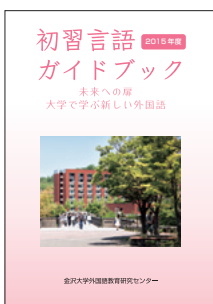
『英語学習ハンドブック』(2015年度版)



大学での効果的な英語学習に役立つ情報や履修のアドバイスなどを収録

◎新入生に配付

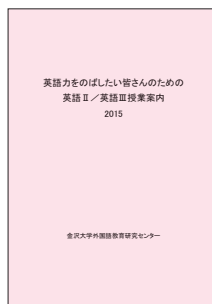
『初習言語ガイドブック』(2015年度版)



本学で開講している初習言語の紹介や履修上の注意などを収録

◎新入生に配付

『英語力をのばしたい皆さんのための英語Ⅱ／英語Ⅲ授業案内』(2015年度版)



英語Ⅱ・英語Ⅲを目的や関心ごとに分類した授業案内

◎学務係で希望者に配付

紀要

『言語文化論叢』第19号

外国語教育法、外国語学・外国語文学、異文化コミュニケーションに関する論文等を掲載

『外国語教育フォーラム』第9号

外国語教育に関する論文、授業実践報告等を掲載

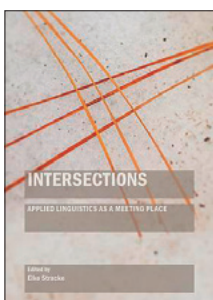
スタッフの出版物



小谷一明・巴山岳人・結城正美・豊里真弓・喜納育江編『文学から環境を考える——エコクリティシズムガイドブック』勉誠出版、2014年



Emmanuel Antier、三上純子、Michel Sagaz著、『FLASH!』駿河台出版社、2014年



根本浩行 The development of L2 academic literacy through online intercultural networks, E. Stracke 編 Intersections: Applied Linguistics as a Meeting Place (pp. 149-170). Cambridge Scholars Publishing. 2014年



Emmanuel Antier、三上純子、Michel Sagaz著、『FLASH! Cahier d'exercices』駿河台出版社、2014年



外国語教育研究センター年報 2014年度

2015年3月発行

金沢大学外国語教育研究センター 広報・社会貢献企画部編

920-1192 金沢市角間町

電話：076-264-5760 fax：264-5993

<http://fliwww.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

flijimu@adm.kanazawa-u.ac.jp

